

市民アンケートから読み解く 「椿峰ニュータウン」の課題

関口 岳

本論文では、「今後の椿峰ニュータウンを取り巻く高齢者社会」を危険視し、市民アンケートの結果をテキストマイニングによって住民の不安視する部分を可視化することで課題の分析を行った。その課題の提言によって、今後の椿峰ニュータウン内で「誰もが生きがいを感じ幸せに暮らせる街づくり」の実現に向けて研究を行った。

まず、第一章「はじめに」では、本研究を行うに至った経緯として、近年の高齢化の事例や具体的な所沢市の税収推移、人口状況を紹介し、その中でも高齢化が他の地域よりも先行的に起こる「ニュータウン」の存在を既存の先行研究から読み解くことで、筆者と所縁のある所沢市の「椿峰ニュータウン」を研究のテーマとして設定した。

また、第二章「テキストマイニングによる課題の可視化」では、前章の「埼玉県内の他のニュータウンに比べ、椿峰ニュータウンは課題が見えづらい」といった観点から、テキストマイニングと呼ばれる大量のテキストデータを対象とした分析方法を使用し、実際に「椿峰ニュータウン」で行われたアンケートを元データとして読み込ませ、様々な観点から椿峰の課題を提言した。

次に、第三章「考察」では、二章で導き出された「課題」に関して、一つ一つ実際の所沢市の取組や地域の特徴、土地の分布などから検証を行い、「課題」が「課題」となっている現状の分析を行った。そのうえで他の自治体が行っている先行事例を用いて、具体的な解決案の考察を行い、高齢者に優しいニュータウンにするための政策を研究した。

これらの、「先行研究の分析」から「アンケート調査からの課題発見」、「課題解決のための検証」、「具体案の提言」といったフローで研究することによって、椿峰ニュータウンの住民の「高齢化」に対応していくためのまちづくりとは何かを研究した。

この結果、先行研究とは少し異なる独自の課題を見つけ出すことが出来、それらに対し、具体的な解決案を提言していくことで新たな知見が生まれ、これらの考察から「誰もが生きがいを感じ幸せに暮らせる街づくり」を考えるための課題発見を進める事ができた。